

事例② 上吉羽地区

事業区域の農地面積	：	37.7ha
農地バンクを活用した面積	：	18.9ha（50％）
機構集積協力金の交付額	：	約200万円

上吉羽地区は自作農家が多い地区であるため、将来的に現在の耕作者が農業を継続できなくなった場合に地域農業の担い手へ効率的に農地の集積・集約化を行えるように、地区全体で農地バンクの活用に取り組みました。

なお、担い手農家以外が耕作する農地のうち8.3ha（22％）が農地バンクを活用し、担い手農家が耕作する10.6ha（28％）と併せて18.9ha（50％）で継続的に耕作が行える体制を作ることができました。

この取組により交付される機構集積協力金については、イネカメムシ防除にかかる空中散布への使用が決定し、農業者の負担の軽減及び収穫量の増加が期待されています。

